

連載：第7回

スライド10の解説（後編）

レビー小体型認知症（DLB）に見られる幻視の特徴の続きです。

ここまで述べてきたように、DLBの幻視には様々なものがありますが、共通点もあります。例えば、以下のような共通点です。

1. 幻視の人や動物は、しゃべったり、鳴いたり、することが無い（しゃべりかけても、いつも無言です）。
2. 触れようとする、消えてしまう。
3. 周囲の環境を変えると（照明の明るさ・壁やカーテンの模様、物の置き場所など）、見えなくなることが多い。

ところが、頻度としては低いのですが、この共通点に従わない幻視もあります。具体例を挙げると、以下の様な幻視です。

1. 猫がいたので、触って・喉をゴロゴロとなぜてあげたら、気持ちよさそうにしていた（触っても猫の幻視は消えないどころか、触った時に毛の感触もあったそうです。つまり、猫の幻視だけでなく、幻触もあったことになります）。
2. ご飯に腐った骨が入っていたので、骨をよけて食べていたが、うっかり食べてしまったら、悪臭がして、すごく不味くて吐き出した（味覚と嗅覚にも影響した骨の幻視です。つまり、幻視だけでなく、幻味・幻嗅も伴っていた例です。これとは反対に、美味しく、良い匂いのするフルーツの場合もあるそうですが、これは幸せな・羨ましい幻視ですね）。
3. ボールが空中をいろいろな音を立てながら飛んでいた（幻視に幻聴も伴った例です）。

患者さんによっては、幻視は無いのに、幻聴だけ聞こえる場合も、時々あるようです。例えば、笛の音・エンジンの音・子供の笑い声・神様の声、などです。「散歩中に、神様の『差し歯を抜いて、捨てなさい』という声が聞こえたので、抜いて捨てました」という例もありました。

また、稀ですが、幻視は無いのに、幻触（体感幻覚）だけある場合も、あります。例えば、「体から汗が噴き出して、それが上着のポケットに溜まっています。見てもよく分からないのですが、ポケットに手を入れると、水が溜まっている感触がします。でも、服を脱いでみると、水は無いんです。不思議ですよ」というような例です。

幻触が先にあって、後から幻視が登場する場合もあります。例えば、「リビングに一人で行ったら、いきなり誰かに背中を叩かれて、ビクッリして振り返ったら、見知らぬ子供が走って逃げて行った」というような例もあります。

幻覚の話をしていると、きりが無くなりますので、このくらいでスライド10は卒業にし

ましよう。DLBの幻覚の特徴を追加しておきます。

1. 幻覚を自覚できて、影響を受けない場合も多い（「これは幻だ」と理解していても、どうしても影響を受けてしまう場合も、もちろんあります。大きなゾンビが近寄ってきたら、幻でも怖いすよね）。

2. 幻覚には、ドネペジル（コリンエステラーゼ阻害薬）という薬が著効することが多い（幻視が消えてなくなります）。

連載第7回はここまでとします。また、来週、お会いしましょう。